

投げる

『礼に始まり礼に終わる。』柔(やわら)の道は、礼儀を、すなわち人を重んじる精神を大切にします。12月、体育は全学年が柔道です。1年生は、正座までの順序、そして座礼を学びました。



『柔よく剛を制す』という一文を柔道の世界で耳にします。相手の力を巧みに利用し、小さい人でも大きい人を豪快に“投げる”ことができる競技です。しかしながら相手のことを慮り、相手が受け身を取れるよう、投げっ放しでなく、引手を引きます。担当教員は『いのちの引手』と表現していました。2年生は立ち技から投げ技へ、いのちの引手を意識しながら練習しました。



パリオリンピックでは、日本柔道界は計8個のメダルを獲得し、活躍をしました。その中でもひとときわ輝いたのは角田夏実選手です。48kg級で金メダルを獲得しました。この角田選手の柔道は、豪快な投げだけを目的とせず、関節技へと移行する、昨今の柔道界ではあまり見ないスタイルです。巴投げから腕ひしぎ十字固めで相手の“ひじを固め”、「参った」を奪う戦法です。1分以下で勝利すること3試合、決勝まで相手にポイントを与えず、角田選手の強さ、新たな闘い方が際立ちました。

御覧の通り、柔道を体操のマットにて行っております。どなたか、不要になった柔道用の畳があれば、お譲りください。「ありがとう」とお礼を申し上げます。

ニュースポーツに分類される“ボッチャ”をご存知でしょうか？こちらは重みのあるやわらかいボールを“投げる”新たなスポーツ、新たな闘いです。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競います。パリパラリンピックにおいて、日本代表チームは2つの銅メダルを獲得しました。その“ボッチャ”の大会が、5日清瀬中スーパーアリーナにて開催されました。清瀬中1組1・2年生A・B、清瀬二中5組A・B・C・D・E、清瀬三中F組A・B・C・D・Eの計12チームという大規模な大会です。予選は6チームずつに分かれてリーグ戦を行います。各リーグ1位同士が決勝、2位同士が3位決定戦に進みます。お互いのチームの礼に始まり試合のスタート。ジャックボールに自球を寄せようとする選手、相手のボールを弾き飛ばして優位に立とうとする選手、手前のボールが邪魔なので上から投げ入れる選手。作戦は様々です。



コントロールすることが難しいであろうと、“投げる”時のコツについて調べてみると「真直ぐに、ひじを固定して肩で投げる」とありました。新しい闘いは「ひじを固める」がキーワードのようです。柔道にボッチャの大会に、選手として参加できない私は脇を固めていたのですが。清瀬中の司会で閉会式です。上位4チームが全て清瀬三中という幕切れでした。清瀬中1組が、熱い思いを投げ込む大会となりました。

追伸 清瀬中善戦するも、4位までの入賞、零に終わる。

